

## 米国リンゴ協会 今シーズンの出荷見通し

[The Packer 2024年8月19日](#)

## 米国リンゴ協会は、今シーズン2億6千万ブッシェルの出荷を見込む

シカゴ - 米国リンゴ協会(USApple)が第129回年次見通し会議で発表した新しいレポートによると、昨年の記録的な収穫に続き、リンゴ生産者達は今年も堅調な年を期待している。

報告書は、2億5,951万7,252ブッシェル(約494万トン)の出荷量を予測しており、同協会によると、これは昨年の最終出荷量に比べて10.1%少ない。(米国リンゴ協会では1ブッシェル=42ポンド(約19.05kg))

同協会の見通し及び分析担当副会長であるクリス・ガーラック氏は、「さまざまな課題にもかかわらず、生産者達の忍耐力と献身的な取組みによって、再びリンゴ生産について有望な年となった。我々が収集したデータは、業界の強さを際立たせるだけでなく、豊かな収穫を確保するためのイノベーションと適応力の重要性も強調している」と述べている。(以下「」は同氏の発言)

米国リンゴ協会によると、ガーラック氏が執筆したこの報告書は、米国農務省の推定値と同協会会員の生産予測に基づいている。すなわち、ガーラック氏が生産者のインプットに基づいて農務省の数値を調整した。

	米国リンゴ協会 2024/25(予測値) ブッシェル
米国計	259,517,252
カリフォルニア州	5,476,190
ミシガン州	30,500,000
ニューヨーク州	31,000,000
オレゴン州	3,571,429
ペンシルベニア州	11,500,000
バージニア州	4,750,000
ワシントン州	155,000,000
その他の州	17,719,632

提供: 米国リンゴ協会

「全米の生産者は、リンゴの品質が優れていると報告している。当協会の数字は、リンゴ生産州のうち上位7州のみを調べている農務省のデータよりも包括的である。当協会は、上位7州以外の州からの生産量も分析し、それを農務省の数値に追加している。また、生産者が毎日果樹園で見ているものに基づいたフィードバックも取り入れている。」

注目される州別の推定値は、カリフォルニア州547万6,190ブッシェル、ミシガン州3,050万ブッシェル、ニューヨーク州3,100万ブッシェル、オレゴン州357万1,429ブッシェル、ペンシルベニア州1,150万ブッシェル、バージニア州475万ブッシェル、ワシントン州1億5,500万ブッシェル、その他の州1,771万9,632ブッシェルである。

**品種** 米国リンゴ協会のデータによると、ガラが依然として最も多く栽培された品種であり、米国のリンゴ市場の約17%にあたる4,800万ブッシェル以上と予想されている。トップ5品種にはこのほか、レッドデリシャス(12.3%)、グラニースミス(10%)、ハニークリスピ(9.8%)及びふじ(9.4%)がランクインしている。

同協会の数字は、ピンクレディー/クリップスピンクとコスミッククリスピの生産の増加を示している。ふじ、ローマ、その他の品種は、2019-20年度から生産量が横ばいである。ガラとレッドデリシャスは減少した。ハニークリスピは、最近5年間では増加傾向にあるが、前年比では減少した。

「ハニークリスピの生産はまだ堅調だが、今年是不調であった。出荷量がガラやレッドデリシャスに近い場合、将来的には生産量が劇的に増加するのではなく、安定するのかもしれない。」

**貿易の見通し** 農務省の貿易データによると、2023-24年度(7月~6月)の生鮮リンゴの輸出量は4,640万ブッシェルで、2022-23年度の輸出量よりも約1,400万ブッシェル多い。ガーラック氏によると、これは前年比で44%の増加である。

2023-24年度(7月~6月)のリンゴの輸入量は15%、すなわち概ね100万ブッシェル減少した。ガーラック氏は、この輸出の増加と輸入の減少が、4,200万ブッシェル以上の輸出超過をもたらしたと述べた。

ガーラック氏は、この輸出の増加は、堅調な国内供給、国際市場で競争力のある価格設定、及び追い風となる貿易政策によるものだと考えている。

「インドへの輸出は、それまでリンゴに課されていた(追加)関税が撤廃されたおかげで、前年比で約4%増加した。この重要な市場は、輸出量と輸出額において成長が続くと楽観視している。」

**世界の生産量** 世界の生産量についてガーラック氏は、国連機関のデータは世界のリンゴ生産量が2022年に初めて50億ブッシェル(約9,500万トン)を超えたことを示しており、これが最新のデータであると述べた。

2022年に中国は25億ブッシェルを生産し、これは世界の総供給量の半分に相当する。トルコは2021年に米国を抜いて世界第2位のリンゴ生産国となり、翌年には差を広げて2億5,300万ブッシェル、つまり世界の生産量の約5%を占めた。

国連機関の統計によると、米国は2億3,200万ブッシュを生産しており、これは世界の生産量の約4.6%に相当する。このほかのリンゴ生産国の上位5カ国では、ポーランドが4.4%、インドが2.7%を占めている。

執筆者: クリスティーナ・ヘーリック

## (関連記事)米国 2024/25年度のリンゴ生産量予想

[Good Fruit Grower 2024年8月15日\(最終更新 8月20日\)](#)

編集者注: この記事は見通し会議の最終日に発表された最終予測を反映するため8月16日に更新され、その後ワシントン州の詳細について追記するため8月20日に更新された。

米国リンゴ協会の2024年見通し会議の1日目は、2024-25年度の米国のリンゴ生産量見通しの当初案を、昨年に比べて約2%少なく、5年平均を5%上回る約2億8,200万ブッシェルと発表して終了した。同協会の見通し及び分析担当副会長であるクリス・ガーラック氏は、「まだ豊作年だと言える」と述べた。

ガーラック氏は8月15~16日にシカゴで開催されたこの会議で、2024-25年度の収穫物の出荷額は33億ドル以上であり、大部分が生鮮市場向けから得られると述べた。

### 最初の見通し

最初の推定値は、米国農務省と米国リンゴ協会のデータに基づいている。同協会のメンバーは、地域ごとの会議でさらに数値を精査し、最終的な見通しは会議の最後に発表される。

州ごとに見ると、ワシントン州の出荷量は2023-24年度に比べて1%減となる約1億7,900万ブッシェルで、引き続き米国最大の生産州であると推定される。ちなみに、米国リンゴ協会は青果用と加工用の合計出荷量を1ブッシェル=42ポンドのブッシェル単位で推定するが、ワシントン州果樹協会は今月これまでに、ワシントン州の生鮮市場向け出荷量を1億2,400万箱(40ポンド/箱)と推定している。

米国リンゴ協会によると、ニューヨーク州は前年比4%増の約3,100万ブッシェルで、2位の座を取り戻すと予測される。直近2年連続で記録的な年を迎えたミシガン州は、10%減の約2,900万ブッシェルと予想される。ペンシルベニア州は7.8%減の1,210万ブッシェル、カリフォルニア州は4.2%減の約550万ブッシェル、バージニア州は4.3%増の520万ブッシェルを生産すると見込まれる。リンゴ産地上位7州の最後に、オレゴン州は5.4%減の360万ブッシェルと見込まれる。(品種別及び他国の推計値は省略しました。)

### 最終見通し

米国リンゴ協会は、2024-25年度の米国のリンゴ出荷量について、昨年と比較して10.1%減の2億6千万ブッシェルを最終見通しとした。

これは、見通し会議の初日に示された最初の見通しと比べてかなり少ない。主に米国農務省の推定値に基づく最初の予測が示された後、米国リンゴ協会のメンバー達は集まり、現在の生育条件について話し合い、より最新の推定値を策定した。同協会のガーラック氏によると、同協会としての最終的な予測は、これらの話し合いに基づいて農務省の数値を調整したものである。

全国的な推定値が小さい主な原因はワシントン州である。同協会は、ワシントン州の見通しを1億5,500万ブッシェルに引き下げた。残りの上位生産州については、ニューヨーク州の最終的な推定値は3,100万ブッシェル、ミシガン州3,050万ブッシェル、ペンシルベニア州1,150万ブッシェル、カリフォルニア州550万ブッシェル、バージニア州480万ブッシェル、オレゴン州360万ブッシェルとなった。

執筆者: マット・ミルコビッチ